

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101003		
法人名	NPO(特定非営利活動)法人 まごころサービス松江センター		
事業所名	グループホーム まごころの家・こしばら		
所在地	島根県松江市古志原5-13-69		
自己評価作成日	令和5年10月22日	評価結果市町村受理日	令和6年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](https://2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和5年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前回の外部評価以降も、コロナ感染予防の為、外出支援や地域の方との交流もできなかったが、個別に少人数で外出等を行った。密を避けご家族様のご協力を頂き近場でのお出掛けも出来た。行事は季節毎にホームの中で、利用者様に楽しんで頂ける事を職員が考え行った。お正月には昔懐かしい「福笑い」「カルタ」節分には職員が鬼になっての「豆まき」夏は本物の竹を使用した「そうめん流し」秋には「運動会」職員も一緒になって楽しみました。利用者様それぞれのお誕生日や敬老会では、職員が腕を振るい手作りのお祝い膳でお祝いをしました。また、アクティビティは、体操や歌、パズルなど毎日欠かさず行っている。ホームの理念「その人らしさと共に生きる」「今日が一番幸せな日」とはどう言う事か、職員がそれぞれに考え、利用者様本位の支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は四季折々の行事の企画や利用者の好みのメニューを提供し、共に笑顔で楽しかったと感じられるように取り組んでいる。ドライブで鯉のぼりを見に出かけたり、近所を散歩し季節を肌で感じられるように努めている。市内の名所に現地でも合流してもらった家族もいる。地域の人から野菜、花の差し入れや古布を持参してもらったり、中学生の職場体験の受け入れも再開している。介護労働センターより、グループホームの取り組みを説明して欲しいと依頼も受けている。看取り支援で最期、家族は利用者の傍に寄り添い、職員も声掛けに訪室を重ね、医師、家族、職員と共に取り組むことができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に、各事業者が独自の理念を掲げ、理念に基づいたケアを行っている。月1回の職員会議で都度話し合いを行いケアに生かしている。	職員会議で理念を掘り下げて全職員で話し合い、日々利用者に関わる際に、理念を具体化して取り組んでいる。朝礼時に具体的項目を唱和し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として自治会に参加し、地域の溝掃除等に参加している。(コロナの為、夏祭りや総会・ボランティアの方の来所は中止)	中学生の職場体験の受け入れも再開し、地域の人から野菜、花などの差し入れがあり少しずつ交流が戻りつつある。新たに近所の人との付き合いも始まった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、運営推進会はコロナの為、外部の方の参加は中止。ホームでの認知症ケアの取り組みや、活動状況は書面にて報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の推進委員の方やご家族様に、2ヶ月に1回ホームでの取り組みを書面にて報告し、意見や要望を頂いている。意見や要望は職員間で共有しケアに生かしている。	コロナ禍、書面での報告をしていたが8月には開催することができ参加者から直接感想を聞くことができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	松江市の介護保険課に、その都度報告し相談させてもらっている。	運営推進会議の報告や「通信」で利用者の暮らしぶりや事業所の具体的な取り組みを伝え、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議内にて内部研修を行ったり、月1回身体拘束委員会を開催し話し合いを行っている。日中緊急時以外は施錠せず、外出を希望される方の対応として思いを抑制せずドライブや散歩等の出来る限りの支援を行っている。	内部研修で身体拘束の具体的な行為を理解し、日々のケアで気になる時には話し合っている。見守りの方法を徹底し、一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かく把握することで、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議内にて内部研修を行い、その都度話し合いを行っている。利用者様それぞれの人格を尊重し、常に敬意を持った言葉かけや態度を職員全員が意思統一し支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議内での内部研修や自主学習により、制度の内容について確認・理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前より、ご家族とこまめに連絡を取り、不安な事や疑問点などあればお話しさせて頂いている。可能であれば、本人やご家族にお会いする機会をもち、契約についても詳しく説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意向を伺い、発語が難しい方については、出来る限りの思いを汲み取り、利用者本位の運営を行っている。ケアカンファレンスではご家族の意見を伺っている。	日頃の様子を「通信」や電話、ラインでこまめに伝え、要望など聞いている。コロナ禍の面会希望や感染発症の時期など実情の理解や協力を得て利用者、職員の安全・安心な暮らしにつながった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士が、気軽に意見や提案が言える様な職場の雰囲気作りに努めている。提案された意見は、職員会議や管理者会議に図り、可能な限り反映できるよう努めている。	職員の意見を聞く機会をもったり、意見を言いやすくする雰囲気作りなど、工夫を入れている。職員の気づきやアイデアを運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して報告を受け、常時話し合いを行っている。毎月、管理者会議の場で意見交換し、職場の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を通して都度報告を受けたり、毎月の職員会議にも参加し、職員1人1人のケアの力量を把握。外部研修にも積極的に参加するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為、外部との交流の場はないが、法人内の他のユニットとは活動やケアについて情報交換し実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より、ご本人のご様子や困り事等を訪問や電話などで確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接等を行い、必要時来所して頂き、ご家族様が安心していただけるよう詳しく説明させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時、ご本人の様子を見させて頂き、状態によっては医療ケアの手厚い施設や病院の方が相応しいと思える時などに紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしたり、家事等を行いかかわりの時間をもち、共同生活を送っている実感が持てるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のケア内容について提案したりご本人、ご家族と一緒に過ごせる機会を提供している(外出・面会等)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望を尊重し、馴染みの美容院や医院等へ行かれるようご家族の協力を得て、可能であれば実施できる体制をとっている。	友達や親戚、遠くの家族と電話で話したり、暑中見舞いのやり取りなど大切にしてきた人との関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様同士の間を取り持ち、意思の疎通が図れるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後でも、ご様子伺いやご家族からの相談を受けており、馴染みの関係を維持している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分で意向伝えることが難しい方もおられ、ご家族やご本人の様子から思いをくみ取ってケアに反映させている。	会話の中で思いを聞き出し本人本位に検討している。意見を伝えることが困難な場合は、日頃の様子を観察し喜ばれる事や困っている事など思いを把握できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、ご家族やご本人より情報を得て生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察や他の職員からの情報を収集し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族に意向を確認し、担当職員と意見交換をしながら計画の作成を行っている。	利用者、家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させている。「できることは自分でしたい」という希望や意向で家事仕事などを日課や役割とし介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々のご様子を記入する事で、ご本人のニーズに気付くことができている。また、利用者様の情報を口頭でも伝達し合い、変化があれば職員同士で話し合い、計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援ができない中、季節の行事や誕生会・クッキングやフラワーアレンジメント等、利用者様の意向をお聞きしながら計画し参加頂いている。また、訪問マッサージ等、必要に応じて導入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為、地域やボランティアの方との関わりができない為実践できず。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医に月1回の往診をして頂き、緊急時には直ぐに連絡・報告を行い指示を得ている。都度ご家族にも報告している。また、皮膚科・整形外科・眼科等必要に応じて往診・受診している。	事業所の協力医や入居前からのかかりつけ医の継続など適切な医療を受けられるように支援している。家族に電話やラインで情報を伝え、共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、週1回の健康チェックを行っている。1人1人の状態を報告し、気になることがあれば報告相談し指示を得ている。24時間体制で緊急時も連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後のご本人の様子について病院・相談員・担当の方に伺い、早期に退院が可能か常に相談検討している。急性期治療が終わりホームで対応が可能であれば早期退院を支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、看取りの契約を行い、指針を策定しご家族との話し合いの時間を持っている。重度化された際や終末期対応について意向を伺い、面会やカンファレンスの際も都度確認している。話し合いの内容をチームで共有するよう努めている。	本人や家族の意向を踏まえ、医師や職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように随時意思を確認しながら取り組んでいる。最期の数日間、家族は利用者の側に寄り添い、職員は声かけの訪室を重ね共に支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から、利用者様の状態で考えられる急変や事故について話し合いを行っている。また、対策や初期対応について全職員が情報や知識を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、消防訓練・避難訓練を年1回、内部での訓練も年1回行っている。また、停電に備え自家発電機を設置。地震・水害時の避難について、状況に応じた方法を話し合っている。	通報訓練や避難訓練などを行い、その様子を職員同士が互いに見て改善点や反省点を話し合い次に繋げている。地域の人に避難者の見守りを依頼するなど協力体制もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常、職員間での利用者様の会話はインシヤルを使いプライバシーの確保に努めている。1人1人の人格を尊重し、常に敬意を持った言葉使いや態度を意識し対応している。	入浴や排泄など援助が必要な時も本人の気持ちを大切に言葉がけに努めている。内部研修で権利擁護や尊重の理解に努め離床や食事時間など体調や気分に合わせて対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の想いや希望をくみ取ることができるよう、日頃より把握できるような声掛けや関りを意識し、表出された気持ちを優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の基本的な流れはあるが、その日その日の利用者様の状態や気持ちを把握し、臨機応変に対応している。穏やかな気持ちで過ごして頂けるよう、ご本人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は、必ず洗顔・整髪をして頂き、行事や外出時にはいつもと違う装い(女性の方はお化粧)をして特別な気分を味わってもらっている。朝の更衣時本人にどの服を着たいのか確認している。2か月に1回訪問美容でヘアカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	理念の「美味しい物が食べられる事」にもあるように、利用者様の好みを把握し、楽しく美味しく食事をして頂けるよう心がけている。季節を感じて頂ける様、その時期の食材を取り入れている。盛り付け・食器拭き等お手伝いして頂いている。	調理専門職員もいるが盛り付け食器拭きなど利用者力を活かしながら一緒にしている。行事に合わせて赤飯、天ぷら、お刺身、茶碗蒸しなど利用者好みのメニューで「美味しい」を大事にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員同士で情報を共有、利用者様の体調を把握し食事・水分量が確保できるよう支援している。また、水分摂取量が少ない方は、摂取量を記録に取り、様々な飲み物を用意し好みや体調に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人1人に合わせた口腔ケアを行っている。夜間は義歯をお預かりし洗浄剤につけ消毒を行い、口腔ケアの際は口腔内に不具合がないか確認。不具合があった場合は歯科医に相談し必要に応じ往診・受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や様子・体調を観ながら1人1人にあつたトイレ誘導を行い記録している。全介助の方も不衛生にならないよう、時間を観ながらパットの交換を行っている。	誘導する事で夜間オムツ対応の人がリハビリパンツになりトイレで排泄ができるように改善したり、下肢筋力低下の防止や排泄用品の削減につながった。夜間立位が不安定な人は居室にPTイレを設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、乳製品を召し上げて頂き、バランスの取れた食事や水分を多く摂って頂ける様に、様々な飲み物を提供している。また、個々の状態を把握し、かかりつけ医や訪問看護師と相談しながら下剤やオリゴ糖等でコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、ご本人の希望と状況により行っている。気分の進まない方には、声掛けを工夫し気持ちよく入浴して頂ける様支援。重度の方はリクライニングのシャワーチェアを使用し、2人で介助出来るだけ体の負担が少なくなるよう対応。	その日の希望や体調に合わせて柔軟な対応をしている。入浴では一対一の密な関わりができ、歌を唄ったりゆっくり会話し楽しく過ごせるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を観察し、日中の活動の支援を行っている。居室の温度管理やこまめにシーツを交換し気持ちよく休んで頂ける様支援している。居室で過ごされる時間が多い方はお好きな音楽を流したりテレビを観て過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬剤情報をファイルし職員がいつでも確認できるようにしている。常に利用者様の状態を観察し状態の変化を見逃さないように職員全員で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生きがいや楽しみを持って頂ける様、一般的な家事活動を中心に、個々の生活歴に合わせた支援を行っている。歌や体操・ボール投げ、クッキングや作品作りを行い日々の生活に刺激ある支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただけるよう、その日のお天気や入所者様の気分に合わせ、密にならないよう、ご近所の散歩や近場のドライブ・買い物物の支援を行っている。	重度化している人は、リクライニング車椅子を利用し外気に触れている。恒例の鯉のぼりを見にドライブしたり、家族と協力を得ながらフォーゲルパークで食事するなど出かけられるように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお金をお預かりし、事業所で管理している。外出支援やご本人様の欲しい物や必要な物は、ご家族様と相談しながら購入させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話をお持ちの方もいらっしゃいますが、ご本人の希望があれば何時でも電話をかけていただき、ご家族様からの電話も取り次いでいます。会話が難しい方は職員が間に入り対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃の様子が分かる写真や季節の飾り付け、音楽を流し安らぎのある心地よい空間作りに心がけている。こまめに温度・湿度の管理も行っている。	庭で咲いた花を飾ったり季節に応じた飾りつけをしている。フラワーアレンジメントで一人ひとりが時期の花に触れ長さや色合いを考え四季を楽しんでいる。ホールはBGM(CD)を流したり、温度や湿度の管理に注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々で、テーブルの配置を変えお一人の空間を作ったり、入所者様同士や職員と一緒に会話やレクリエーション等楽しめるような空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼット以外は、馴染みのあるタンス等を使用して頂き個々に合わせた居室作りに努めている。ご本人やご家族と相談し、壁にご家族との写真や自身の作品等を飾っている。	家族写真やパッチワーク、クリスマスツリーなど作品を飾ったり、職員からの寄せ書きを置いている。筆筒やテレビなど持参し利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所には、手すりがついており自立の方が安全な歩行が保てるよう工夫している。利用者が分かるように、本人の持ち物や居室入口に名前を書いている。		